

<全体分析>

試験時間 2科目で150分

<p><b>解答形式</b> 客観式 20 個(選択式 15 個, 記述式 5 個), 論述式 15 題(1行×2, 2行×10, 3行×3, 計 31 行)</p> <p><b>分量・難易(前年比較) 分量(減少・変化なし・増加) 難易(易化・変化なし・難化)</b> 論述問題の数は昨年度の 17 題から 2 題減少し, 客観式の解答数は 1 個増加して 20 個となった。問題に使われた図表の数は, 大幅に減少し, 受験生の負担感は軽減されたと思われる。内容的には, 論述問題も書きやすいテーマが多く, 全体の難易度は昨年と大きな変化はない。</p> <p><b>出題の特徴</b> さまざまな地図と地理情報を扱った主題図や地形図を多用することが近年多かったが, 第1問の図1-1を除いて, それに該当する図はなかった。海洋, 環境問題, ヨーロッパの人口, 日本の産業立地など, これまでの東大本試で問われた内容が切り口を変えて出題されている設問もあり, 過去問の学習も必要である。</p> <p><b>その他トピックス</b> 今年は, 2009 年以降隔年で出題されていた地形図の出題はなかった。第2問設問Bのエネルギー供給量上位国について, 中国, インドに関しては第2回東大即応オープンで扱った。第3問設問B(3)の自動車とデジタル家電に関する比較については, 東大本番プレテストで扱った。</p>
---

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
第1問	記述 選択 論述	島と海	設問 A(1)は, 火山島とサンゴ礁島の分布の違いにも注意したい。設問 A(2)は, 図からサンゴ礁からなる小島嶼国が各大陸から離れて分布していることを読み取りたい。設問 B(3)のマダガスカル産業については, 自然資源の利用に基づく基幹産業をイメージしにくく, 非常に書きにくい。	やや難
第2問	記述 選択 論述	世界の水資源と環境問題	設問 A(3)のエチオピアの水資源の特徴は, 書きにくい。(4)の仮想水(ヴァーチャルウォーター)は, 教科書にも記述があり, 確実にまとめたい。	標準
第3問	選択 論述	ヨーロッパと日本の産業・社会の変化	設問 A(1)の判定は難しくはないが, 誤ると(2)以降にも関わるので注意したい。(2)以降の論述問題は, 確実に得点したい。設問 B(1)の判定は, 日本の戦後からの産業分布の変化を理解しておく必要があり, やや難しい。(2)は国内における変化であることに注意したい。輸送用機械と電気機械の立地の特徴から考えよう。(3)はデジタル家電と輸送用機械で, 近年の日本の国際競争力の違いについて注目したい。	標準

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で, 当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

<ol style="list-style-type: none"> <li>客観式問題での得点が合否にかかわらず, 教科書やセンター試験の過去問などで基本的知識を確実に習得しておきたい。</li> <li>指定語句を使ったり, 資料から判読できることをもとにコンパクトにまとめることが求められているので, 60 字程度の短い論述演習を繰り返し, 限られた時間で論述する力を身につけておきたい。</li> <li>統計を解釈する問題が頻出しており, 統計のもつ意味をきちんと理解した学習が求められる。</li> <li>日本の変化に関する問題が頻出しており, 「高度経済成長期」, 「石油危機」, 「円高」, 「バブル崩壊」, 「都心回帰現象」など時代を理解するキーワードをもとにそれぞれの年代の特徴を理解しておきたい。</li> <li>日本に関しては, 具体的な地域についての知識よりは, 大都市圏と地方圏, 大都市圏内の都心と郊外, 地方圏における中心都市など, 機能からみた地域の特徴を把握しておきたい。</li> <li>今年は出題がなかったが, 典型的な地形の地形図をもとに, 等高線の形状から地形がイメージできるようにしておきたい。</li> </ol>
--